

松組おばけやしきへようこそ…

この絵本に
しようかなあ…



血の手形で
怖がらせるぞ！



ハロウィンの時のおばけ繋がりで、「おばけやしきがやりたい！」と計画する松組さん 🎃

どんなおばけやしきにしたいかをサークルタイムでみんなで話し合いました。「迷路にしたい！」「仕掛けを作りたい！」などの意見が出て、それをどうやって作っていくかも子ども達同士で話合っていました。全く違う意見が出ても、「それもいいね」と自分以外の考えを受けとめ、友達の思いも大事にしてくれていました。そんな姿から思いやりの気持ちや、違う意見ももちろんあることを理解し、多様な考え方を認め合える力が育っていると感じました 😊



井戸から飛び出て
驚かそう 😱



井戸制作中！



看板完成！



看板も無事完成し、いよいよ松組おばけやしきオープン！

初日からひよこ組～竹組まで、沢山のお客さんがおばけやしきに遊びに来てくれました。松組さんたちは準備ばっちり！おばけになりきって、みんなで決めた場所にスタンバイして・・・自分達も楽しみながら、お客様たちを怖がらせようと張り切っていました 😊

泣いてしまった小さい組のお友達には、そっと手をとって「怖くないよ、一緒に行こう」と優しく声をかけてくれていました。話し合いの時に、『泣いた子がいたら優しいおばけになろうね』とみんなで決めていたので、このように接してくれたのだと思います。とても心が温かくなりました 😊

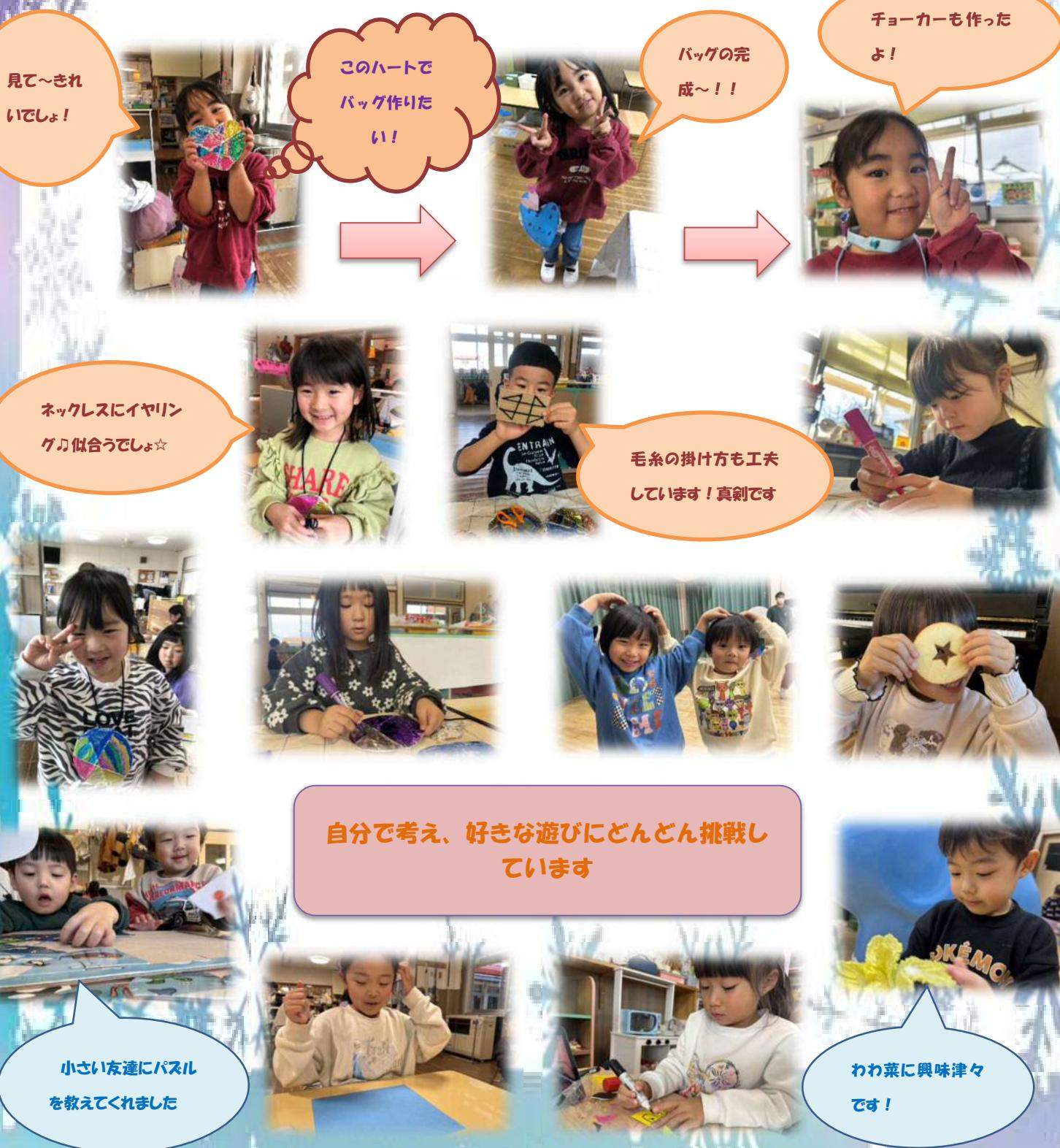
化け猫だぞ～



竹組1 2月 保育目標：自分の思いを出し合い、友達とイメージを共有しながら、遊びを進める楽しさをあじわう

好きなもの作って遊ぼう！

段ボールに毛糸を掛けて、アルミホイルで包み、好きな色で塗っていくステンドグラス作りを楽しんでいる子ども達。「これはママにあげよう」「こっちはパパに」など作ったものを嬉しそうに持ち帰る姿もみられています。そんな中、「次は、イヤリング作りたい！」「バッグ作りたい！」とイメージがどんどん膨らんでいきます！そのためには、「小さいハートの段ボールほしいな」「ひもの長さはこれくらいかな？」など自分で考えながらイメージしたものを形にしようと取り組んでいます。そして、バッグが完成すると、さっそく身に付けて見せてくれました！その姿を見た他の友達も「私も作りたい！」という声も聞かれ、友達の姿から「やってみたい！」がどんどん広がり、一緒に楽しさを共有し遊びを深めています。



今日は誰になるかな？



鬼決めしよー
誰が鬼かな？



だるさんが
転んだ

もう少しでタッチ
出来るぞ



晴れた日には園庭で遊ぶのを楽しみにしている子ども達。「鬼ごっこしよ」「だるさんが転んだやりたい」と子ども達から自然と声が上がり、異年齢で集まって片足を出して鬼決めが始まります。鬼が決まると、「キャー！」と一緒に園庭中に広がり全身を使って楽しんでいる姿が見られます。遊びの途中に「私も入れて」「いいよ」と人数が徐々に増えていき、一緒に楽しさを共有したり、「もっと遠くからスタートしよ」などと子ども達同士でルールを決めたりしながら、楽しみながらも考えて遊ぶ力が育っています。

誰がいっぱい取れるかな？



松組さんに読んでもらっ
ていっぱい取るぞ！！



どれかな?
これかな?

運動会の頃から国旗に興味を持ち始め国旗かるたを楽しんでいました。国旗から他のかるたにも興味を持ち、様々なかかるたを楽しんでいます。まだ字を読むのは難しいですが、松組さんから読んでもらったり、読み札を見せてもらい同じ字を探して楽しみながら取っています。

はっけよい！ のこった！！



負けな
いぞ！

どちらも気
合充分！



松組に
勝てる
かな？



松組さんから始まったお相撲に、初めは見ているだけだった梅組さん。少しづつルールがわかつてきたのか遊びの輪に入り、相撲を楽しむ姿が見られました。「梅組さんだから優しくしてあげる」等、年上児から少し手加減してもらいうがらも勝てると大喜びで何度も楽しんでいました。勝っても負けても笑顔があふれ、異年齢で自然と関わりながら遊び姿が見られました。

ドーナツ屋さんで～す

桜組 12月

保育目標：保育教諭や友達と簡単なごっこ遊びや集団遊びを楽しむ

ドーナツ屋さんを見つけた桜組さん。友達と一緒に行ってみると、お兄さんとお姉さん達が「いらっしゃいませ」「どれいいですか」とおもてなしてくれました。



いらっしゃい
ませ～



どれに
しますか～



わたし
これがいい

はい
どうぞ～

年上の友達の姿に興味を持った桜組さんは、自分達でドーナツ屋さんを始めました。



はい、
どうぞ～



こっちも
どうぞ～



これとこれと
こっちも入れよう

今度はキッチンカーで販売です。なんと支払いはペイペイです。自分達が体験したことや知っていることを遊びに取り入れていました。



あっちの友達にも
あげてくるね～



ドーナツ
いかがですか～



ペイペイで
お願いしま～す



子どもは年上の友達や大人をよく見ており、そこで得た経験や知識を遊びに取り入れることが多くあります。また、その中で、保育教諭が一緒に遊びながら、子どもの声を拾ったり、遊びを広げるヒントを出したりすることで、想像が広がり、遊びが発展していくことが感じたドーナツ屋さんごっこでした。

お医者さんに変身！



お医者さんごっこでは、聴診器を当て診察や検温の真似をしながら、なりきって遊ぶ姿が見られ、自分の経験していることを再現して楽しんで遊んでいます。また体を使った遊びも好きで、お友だちや年上児のしていることに興味をもち、“やってみたい”と真似しています。



診察中です



自分の体を持ち上げ
上まで登ります！

ドーナツはいどうぞ～



鉄棒につかまって
ぶらぶら～

☆真似っこ遊び（模倣遊び）に興味が高まってきて、お医者さんごっこをしたり、大きい組さんが楽しんでいるドーナツ屋さんで遊んだりしています。お医者さんごっこでは「ピッピッする」と体温計を脇にはさみ熱を測ったり、薬をぬったり、人形や保育教諭のお腹に聴診器をあてて診察する真似をしています。模倣することを通して保育者や友だちとイメージを共有することを楽しんでいて、言葉でのやりとりも増えてきています。

